

ハウスカオンのメンテナンスについて

ネポン株式会社 農用部
〒150-0002 渋谷区渋谷1-4-2
TEL 03(3409)3175 FAX 03(3409)3187

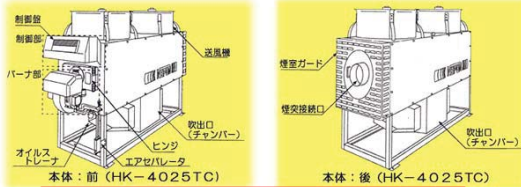
目次

ハウスカオン各部の名称	3
【加温開始編】	4
＜メンテナンスの方法＞	
バーナ廻りの清掃・点検	5
STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃(機種別)	6
→5～10型 (赤色の機種)	7
→20・22型 (灰色の機種)	16
→25型 (緑色の機種)	20
→27型 (オレンジ色の機種)	27
STEP 2 ストレーナの掃除	15
STEP 3 火炎検出器の清掃(機種別)	31
STEP 4 点検・掃除が終わったら	34
【加温終了編】	36
＜メンテナンスの方法＞	
STEP 1 缶体の掃除はシーズオフに！ ～掃除の方法～	37
STEP 2 油配管のバルブ操作	39
STEP 3 元電源は必ず切る！	40
STEP 4 制御盤および付属コード類の取り外し	40
ちよつとひとこと	41
最後にお願い	42

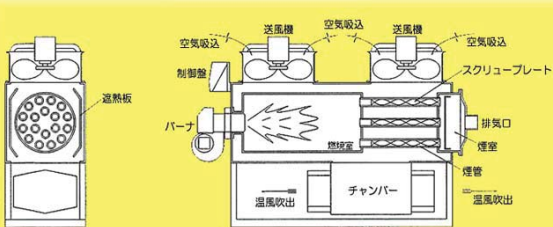
ハウスカオン、各部の名称確認

ハウスカオンのメンテナンスについて

※作業は各自の責任において行ってください。▶



点検の前に、ハウスカオンの各名称を確認しましょう！



ハウスカオン構造図

ハウスカオンの各名称がわかたら、実際にメンテナンスを行なってみましょう。

加温開始編
P 4 へ

加温終了編
P 37 へ



電源を切る



※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行ってください。

【加温開始編】

シーズンオン 秋～冬



秋になり、
そろそろ暖房機の準備をする
時期となりました。

急な冷え込みであわてて準備をすると
機器の調整不備や部品の不良など
思わぬ不具合で時間がかかってしまったり、
後々不具合が発生したりします。

時間的に余裕のあるこの時期にメンテナンスを行い、
もうすぐ来る暖房シーズンに備えましょう。



※作業は各自の責任において行ってください。▶

加温開始編

シーズンオン 秋～冬

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

- **バーナ周りの清掃・点検**
暖房機のカナメといえるバーナは、様々な部品から構成されており定期的に整備や部品の交換が必要です。これを怠ると不着火など重大な故障にもなりかねないので、トラブルを未然に防ぐ為にも実施をお願い致します。
- **ノズルの交換とディフューザーの清掃**
燃料噴霧ノズルは、使ううちに磨耗してしまいます。磨耗したノズルは燃油を噴霧するための溝が大きくなり、燃油量が増えることでオーバーロードとなります。この様な状態では、缶体を痛めたり燃焼状態を悪くさせたりしますので、故障の予防の為にもノズルのシーズン毎の交換をお勧めいたします。また、ノズルは噴霧圧力と共に、各機種(熱出力)別にサイズが決まっていますので機種に合ったノズルを使用して下さい。

ハウスカオキ型式	ノズルサイズ	噴霧角度	設定油圧MPa(kgf/cm ²)	ノズルタイプ
155・156・158・160	1.0 G	80°	0.78(8.0)	SS (ハゴ製)
1520・1522・1525・1527	1.1 G		1.03(10.5)	
205・206・208・210	1.35 G		1.03(※10.5)	
2020・2022・2025・2027	2.0 G		1.03(10.5)	
305・305・308・310			0.93(9.5)	
3020・3022・3025・3027	2.5 G		1.03(10.5)	
405・406・408・410			1.03(※10.5)	
4020	3.5 G		1.03(10.5)	
4022・4025・4027			1.03(※10.5)	
505・506・508・510	4.0 G		1.03(※10.5)	
5020・5022・5025・5027		1.03(10.5)		
605・606・608・610	4.0 G	1.03(※10.5)		
6020・6022・6025・6027		1.03(10.5)		

※ギヤポンプ A2-70の場合は0.93MPaで使用すること。

ハウスカオキのタイプ別に作業手順が若干異なりますので、

次のページの4タイプのうちいずれか該当する機種を選択して下さい。



赤色の機種(ハウスカオキ5～10型)の場合

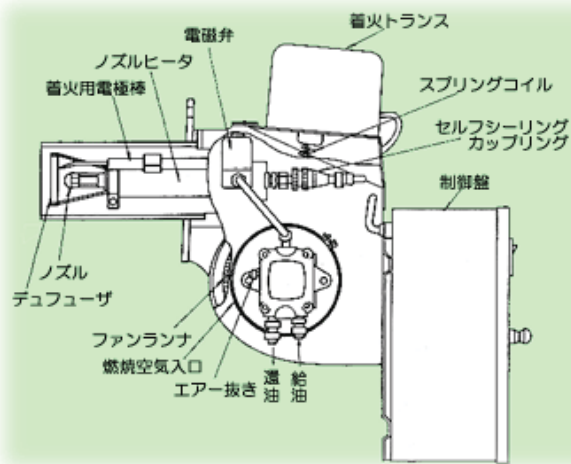
加温開始編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。



【メンテナンスの流れ】

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃	8
●300～600型の場合	11
●150・200型の場合	14
STEP 2 ストレーナの掃除	15
STEP 3 火災検出器(cds)の清掃	34
STEP 4 点検・掃除が終わったら	41
ちよつとひとこと	42
最後にお願い	



お使いの機種を選びましょう。

加温開始編

シーズンオン 秋～冬

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。



<5～10型>
赤色のハウスカオキは
P7へ



<20・22型>
灰色のハウスカオキは
P16へ



<25型>
緑色のハウスカオキは
P20へ



<27型>
オレンジ色のハウスカオキは
P27へ

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

加温開始編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

赤色の機種

【300～600型の場合】

(1) 着火トランス用のツイストコンセントを外し、バーナ蓋の蝶ネジを外して、バーナ蓋を開けます。



(2) ノズルヒータのコネクタ(2本)を外します。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

加温開始編

赤色の機種

(3) カブラ(ギザギザの部分を手前に)を引き、ノズルヒータセットを引き出します。



(4) ディフューザを固定しているネジを緩め、ディフューザを外します。
 (5) ディフューザが汚れていたら、ワイヤブラシなどで汚れを落とします。又は、灯油・洗油などで洗います。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

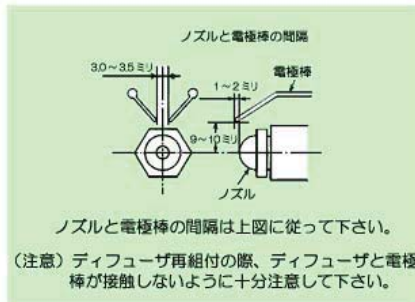
加温開始編

赤色の機種

(6) ノズルを交換します。
 (注意)
 ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
 ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
 ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図のようにノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整してください。



(7) 電極棒の端子部分に、ヒビや割れなどがあつた場合は必ず交換してください。
 (8) 取付は、逆の手順で行ってください。

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

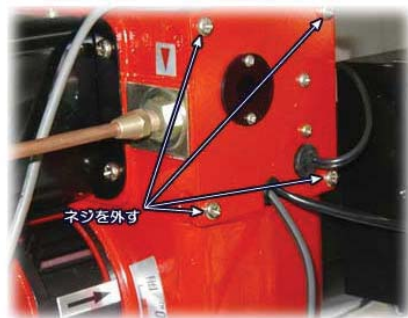
加温開始編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

赤色の機種

[150~200型の場合]

(1) パーナ背面の板のネジ(4箇所)を外し、板を外します。



(2) スパナで銅パイプを外し、ロックナットを緩めてノズルヒータを引き出します。
 (注意) 引き出す際、着火トランスのスプリングコイルに引っ掛けないよう注意してください。



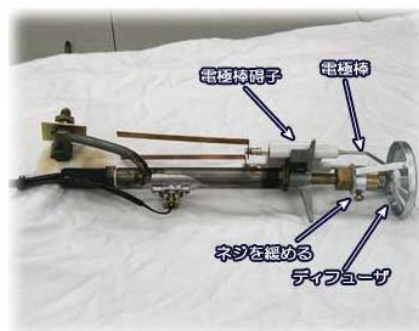
STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

加温開始編

赤色の機種

(3) ディフューザを固定しているネジを緩め、ディフューザを外します。

(4) ディフューザが汚れていたら、ワイヤブラシなどで汚れを落とすか、又は、灯油・洗油などで洗ってください。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

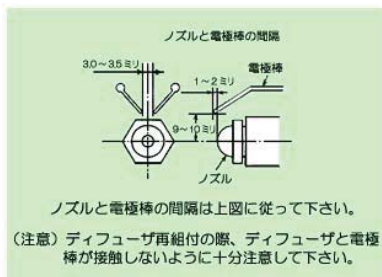
加温開始編

赤色の機種

- (5) ノズルを交換します。
 (注意)
 ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
 ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
 ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図のようにノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整してください。



- (6) 電極棒の端子部分に、ヒビや割れなどがあつた場合は必ず交換してください。
 (7) 取付は、逆の手順で行ってください。

(注意)
 電極棒リード板と着火トランスのスプリングがうまく合うようにしてからロックナットを締めてください。

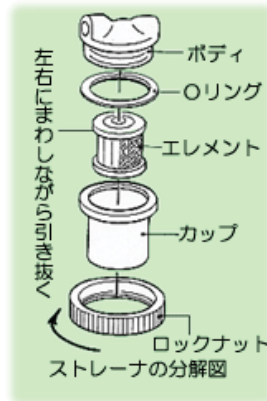
STEP 2 ストレーナの掃除

加温開始編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

燃料中には、わずかででも不純物があり、オイルタンクや配管内に溜まった汚れはバーナ回りの配管にも流れてきます。この不純物や汚れはノズルを詰まらせるので、それらを除去する為に、「オイルストレーナ」「ギヤポンプストレーナ」などがあります。

ストレーナが詰まると燃料も流れなくなり、不着火の原因になりますので、ストレーナは必ず定期的に掃除を行ってください。



1. ロックナットを左に回しボディより外します。
2. ロックナットを外しますと図の様に分解できます。
3. 灯油・洗油などで各部品を洗います。
 (注意) エレメントは、歯ブラシなどの柔らかいブラシを使って洗ってください。カップ内の汚れ・ゴミなどもきれいにしましょう。
4. 組み付けは、逆の手順で行ってください。

STEP 3 火災検出器(cds)の清掃

加温開始編

赤色の機種

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

火災検出器(cds)は、字の通りバーナの着火及び消火を検出するための部品です。これがスで曇っていたら、サングラスをかけたようになり、炎が明るく見えません。また、この部品はだいたい3年~5年で消耗し使えなくなります。この火災検出器で、燃焼時の炎が検出できないと自動運転が行えず、不着火の原因になりますので定期的な掃除・部品交換をお奨めいたします。

【赤色の機種の場合】

◆ハウスカオキ5型・6型

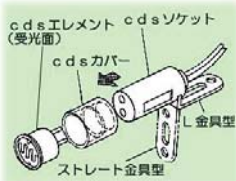
- (1) バーナ蓋を止めている蝶ネジの近くにある火災検出器(cds)を引き抜く。
 (2) 受光面を柔らかいきれいな布などで清掃し、もとにもどす。

◆ハウスカオキ8型・10型 [300~600型の場合]

- (1) 着火トランス用のツイストコネクタを外し、バーナ蓋の蝶ネジを外しバーナ蓋を開ける。
 (2) バーナ背面の板のネジ(4箇所)を外し、板を外します。



- (2) 図のように矢印の方向にcdsカバーを引くとcdsエレメントが抜き取れます。



- (3) 受光面を柔らかいきれいな布などで清掃します。

- (4) 組み付けは、逆の手順で行ってください。

➡「STEP 4 点検・掃除が終わったら」 P34へ

灰色の機種(ハウスカオキ20・22型)の場合

加温開始編

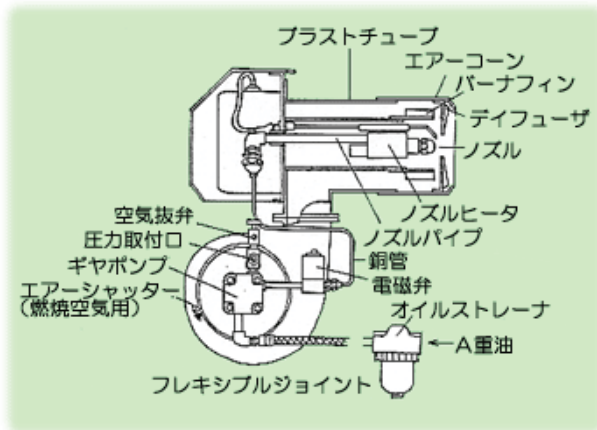
※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。



【メンテナンスの流れ】

STEP 1 ノズルの交換とディフューザの清掃	17
STEP 2 ストレーナの掃除	15
STEP 3 火災検出器(cds)の清掃	31
STEP 4 点検・掃除が終わったら	34

ちょっとひとこと
 最後にお問い合わせ



STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

ハウスカオキのメンテナンスについて

加温開始編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

灰色の機種

(1) バーナヒンジを開ける。



(2) エアコーンのネジ(3箇所)を緩め、エアコーンを引き抜きます(回して外す)。



(3) バーナフィンのネジを緩め、バーナフィンを外します。



Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

17

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

ハウスカオキのメンテナンスについて

加温開始編

灰色の機種

(4) エアコーンに付いているディフューザやバーナフィンは、汚れていたらワイヤブラシなどで汚れを落とします。あるいは、灯油・洗油などで洗います。

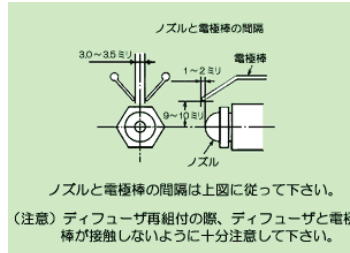
(5) ノズルを交換する。

(注意)

- ・ノズルを外すときは必ずダブルスパナで外してください。
- ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
- ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図の様にノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整してください。



(6) 電極棒の碍子部分に、ヒビや割れなどがあつた場合は必ず交換してください。

(7) 取付は、逆の手順で行ってください。

(注意)

- バーナフィンは、インナーチューブに押しつけた状態でネジ止めしてください。
- また、エアコーンのディフューザは、バーナフィンに押しつけた状態でネジ止めしてください。

➡「STEP 2 ストレナーの掃除」 P15へ

Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

18

STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃

ハウスカオキのメンテナンスについて

加温開始編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

灰色の機種

火炎検出器(cds)は、字の通りバーナの着火及び消火を検出するための部品です。これがススで曇っていたら、サングラスをかけたようになり、炎が明るく見えません。また、この部品はだいたい3年～5年で消耗し使えなくなります。この火炎検出器で、燃焼時の炎が検出できないと自動運転が行えず、不着火の原因になりますので定期的な掃除・部品交換をお奨めいたします。

【灰色の機種の場合】

(1) バーナカバーを外します

(2) 火炎検出器(cds)を固定しているネジを外しバーナより引き出します。



(3) 受光面を柔らかいきれいな布などで掃除します。

(4) 清掃後、もと通り組み付けます。

➡「STEP 4 点検・掃除が終わったら」 P34へ

Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

19

緑色の機種(ハウスカオキ25型)の場合

ハウスカオキのメンテナンスについて

加温開始編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。



【メンテナンスの流れ】

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

※ 25型には2つの掃除方法があります。

●方法①

●方法②

STEP 2 ストレナーの掃除

STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃

STEP 4 点検・掃除が終わったら

ちょっとひとこと

最後にお願ひ

21

24

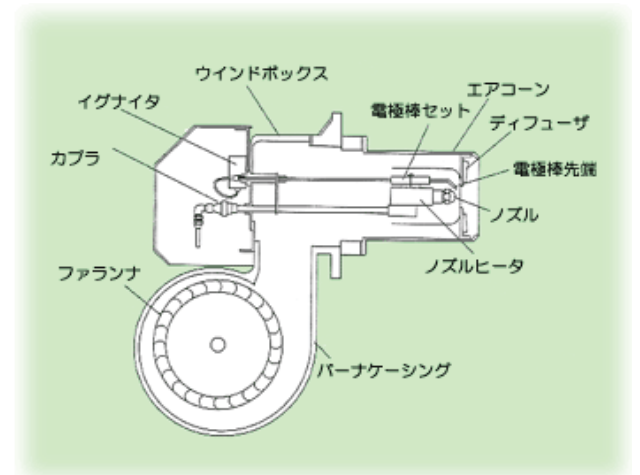
15

31

34

41

42



Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

20

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

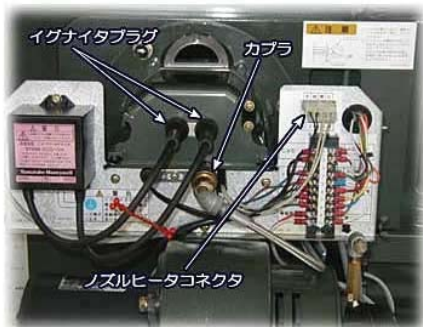
加温開始編

緑色の機種

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行ってください。

[清掃方法①]

- (1) パーナカバーを外します。
- (2) カブラ・イグナイタプラグ・ノズルヒータコネクタを外します。



- (3) ウインドボックス蓋を外します。



Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

21

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

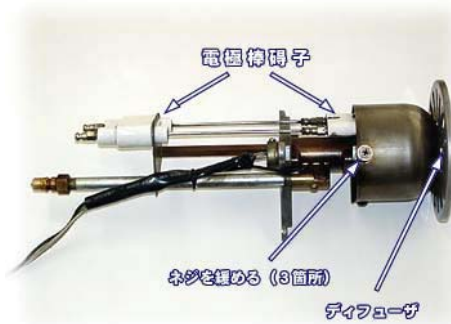
加温開始編

緑色の機種

- (4) ノズルヒータユニットを取出します。



- (5) ディフューザットのネジ(3箇所)を緩めて、ディフューザットを外します。ディフューザットは、汚れていたらワイヤブラシなどで汚れを落とします。あるいは、灯油・洗油などで洗います。



Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

22

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

加温開始編

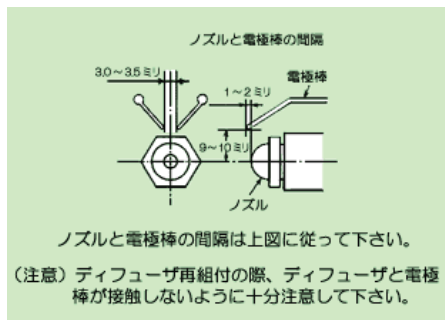
緑色の機種

- (6) ノズルを交換する。

- (注意)
- ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
 - ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
 - ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図の様にノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整して下さい。



- (7) 電極棒の棒部分に、ヒビや割れなどがあつた場合は必ず交換してください。
- (8) 取付は、逆の手順で行ってください。イグナイタプラグは、ケーブルが交差しない様に取り付けて下さい。

➡「STEP 2 ストレナーの掃除」 P15へ

Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

23

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

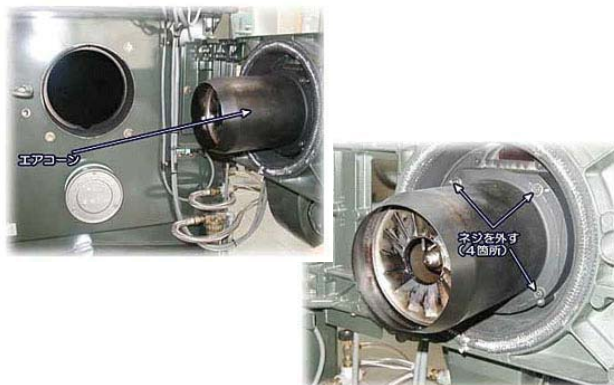
加温開始編

緑色の機種

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行ってください。

[掃除方法②]

- (1) パーナヒンジを開けてエアコーンのネジ(4箇所)はずし、エアコーンを外します。



- (2) ディフューザットのネジ(3箇所)を緩めてディフューザットを外します。



Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

24

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

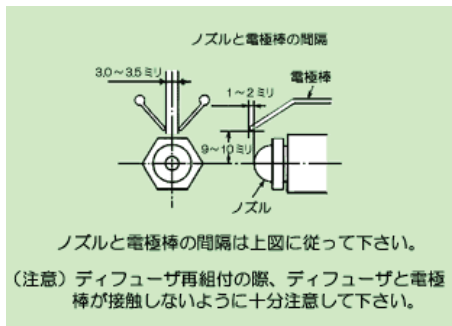
加温開始編

緑色の機種

- (3) ディフューザセットは、汚れていたらワイヤブラシなどで汚れを落とします。あるいは、灯油・洗油などで洗います。
 - (4) ノズルを交換します。
- (注意)
- ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
 - ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
 - ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図の様にノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整してください。



- (5) 取付は、逆の手順で行ってください。

➡ 「STEP 2 ストレナーの掃除」 P15へ

STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃

加温開始編

緑色の機種

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行ってください。

火炎検出器(cds)は、字の通りバーナの着火及び消火を検出するための部品です。これがスズで曇っていたら、サングラスをかけたようになり、炎が明るく見えません。また、この部品はだいたい3年~5年で消耗し使えなくなります。この火炎検出器で、燃焼時の炎が検出できないと自動運転が行えず、不着火の原因になりますので定期的な掃除・部品交換をお奨めいたします。

【緑色の機種の場合】

- (1) バーナカバーを外します。



- (2) 火炎検出器(cds)を固定しているネジを外しバーナより引き出します。



- (3) 受光面を柔らかいきれいな布などで掃除します。



- (4) 清掃後、もと通り組み付けます。

➡ 「STEP 4 点検・掃除が終わったら」 P34へ

オレンジ色の機種(ハウスカオキ27型)の場合

加温開始編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行ってください。



- 【メンテナンスの流れ】
- STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃
 - ※ 27型には2つの掃除方法があります。
 - 方法① 26
 - 方法② 21
 - STEP 2 ストレナーの掃除 15
 - STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃 31
 - STEP 4 点検・掃除が終わったら 34

ちょっとひとこと 41
最後にお願ひ 42

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

加温開始編

オレンジ色の機種

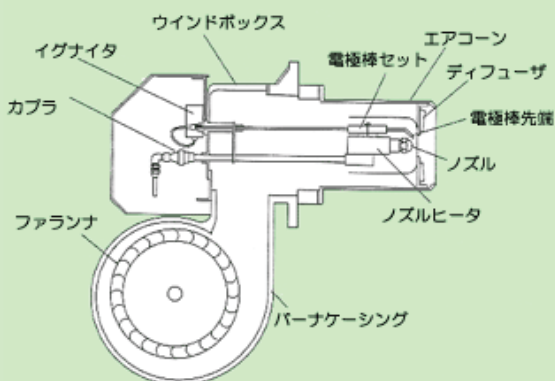
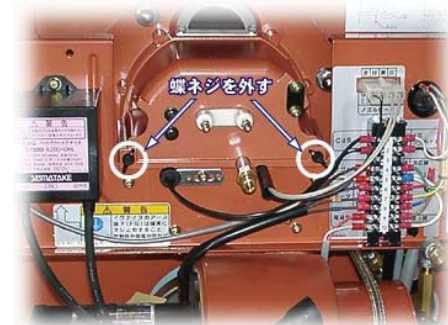
※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行ってください。

【清掃方法①】

- (1) バーナカバーを外します。
- (2) カプラ・イグナイトプラグ・ノズルヒータコネクタを外します。



- (3) 蝶ネジを外し、ウインドボックス蓋を外します。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

加温開始編

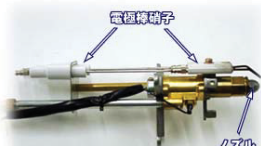
オレンジ色の機種

(4) ノズルヒータユニットを取出します。



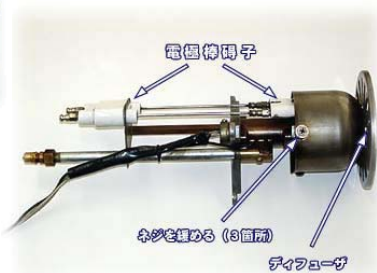
1527、2027、3027の場合

➡ 「(6) ノズル交換」 P30へ



4027、5027、6027の場合

(5) ディフューザセットを外す。
ディフューザセットのネジ(3箇所)を緩めて、外します。ディフューザは、汚れていたらワイヤブラシなどで汚れを落とします。あるいは、灯油・洗油などで洗います。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

加温開始編

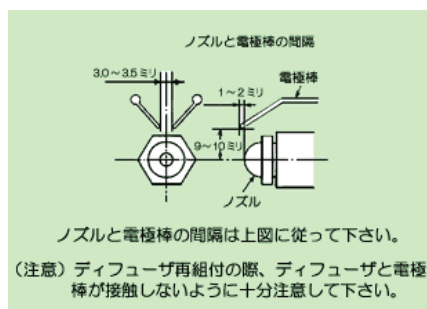
オレンジ色の機種

(6) ノズルを交換する。

- (注意)
- ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
 - ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
 - ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図の様にノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整して下さい。



- (7) 電極棒の棒部分に、ヒビや割れなどがあつた場合は必ず交換してください。
(8) 取付は、逆の手順で行ってください。
イグナイタプラグは、ケーブルが交差ししない様に取り付けて下さい。

➡ 「STEP 2 ストレーナの掃除」 P15へ

STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

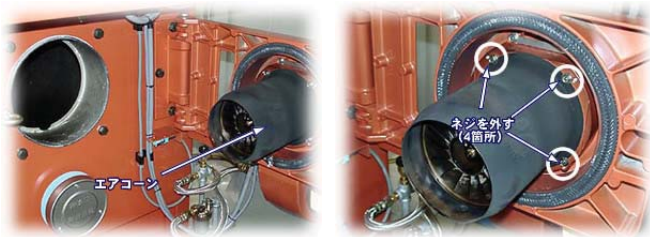
加温開始編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

オレンジ色の機種

【掃除方法②】

(1) パナヒンジを開けてエアコーンのネジ(4箇所)はずし、エアコーンを外します。

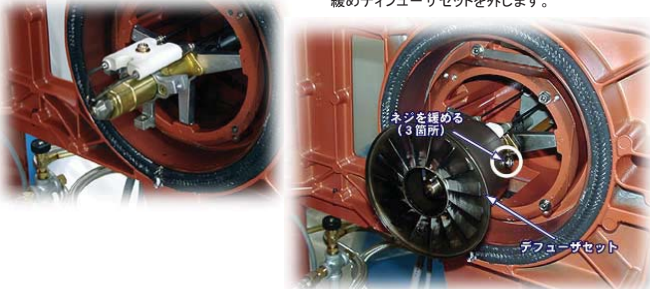


<1527、2027、3027の場合>

➡ (3) ディフューザの掃除 P32へ

<4027、5027、6027の場合>

(2) ディフューザセットのネジ(3箇所)を緩めてディフューザセットを外します。



STEP 1 ノズルの交換とディフューザーの清掃

加温開始編

オレンジ色の機種

(3) ディフューザーの掃除

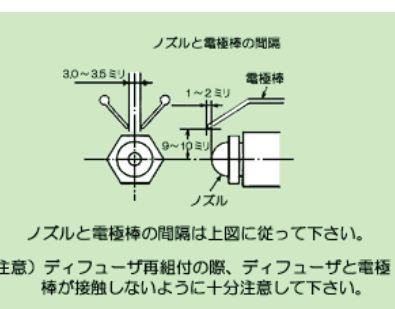
ディフューザが汚れていたらワイヤブラシなどで汚れを落とします。あるいは、灯油・洗油などで洗います。

(4) ノズルを交換します。

- (注意)
- ・ノズルを外す時は、必ずダブルスパナで外してください。
 - ・ノズルを取り付ける時はきつく締め過ぎないでください。
 - ・ダブルスパナを片手で握って締める程度で充分です。



交換時は、図の様にノズル・電極棒・ディフューザの位置関係を調整してください。



(5) 取付は、逆の手順で行ってください。

➡ 「STEP 2 ストレーナの掃除」 P15へ

STEP 3 火炎検出器(cds)の清掃

ハウスカオンのメンテナンスについて

加温開始編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

オレンジ色の機種

火炎検出器(cds)は、字の通りバーナの着火及び消火を検出するための部品です。これがススで曇っていたら、サングラスをかけたようになり、炎が明るく見えません。また、この部品はだいたい3年～5年で消耗し使えなくなります。この火炎検出器で、燃焼時の炎が検出できないと自動運転が行えず、不着火の原因になりますので定期的な掃除・部品交換をお奨めいたします。

【オレンジ色の機種の場合】

(1) バーナカバーを外します。



(2) 火炎検出器(cds)を固定しているネジを外しバーナより引き出します。



(3) 受光面を柔らかいきれいな布などで掃除します。



(4) 清掃後、もと通り組み付けます。

➡「STEP 4 点検・掃除が終わったら」 P34へ

Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

33

STEP 4 点検・掃除が終わったら

ハウスカオンのメンテナンスについて

加温開始編

作業が終わったら試運転を行いません。併せて作業箇所の確認をしましょう。

【1】電源を投入し、給油コックを開き運転スイッチを「ON」にします。

【2】油配管内の「エア抜き」を行います。

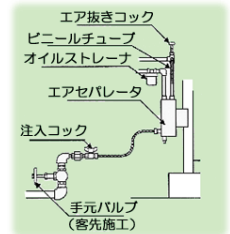
1. エア抜きコックを開け配管内とエアセパレータのエアを抜きエアがなくなったら コックを閉じる。
2. オイルストレーナ上面のネジを緩めエアを抜く。エアがなくなったらネジを締める。
3. ハウスカオンの温度設定を最大(35℃)にしてハウスカオンキを起動させる。
4. バーナモーターが回転したら数秒後に運転スイッチを「停止」にする。
5. エア抜きコックを開けエアを抜きエアがなくなったらコックを閉じる。
6. 上記(3)～(5)をエアが出なくなるまで繰り返し行う。

【3】作業箇所の異常その他を確認する。(油漏れなど)

【4】新しい油で5分位運転する。

運転開始後は、煙突から出る排気ガスの色を確認してください。

着火時に多量の白煙、燃焼時に黒煙が出る場合は、エアシャッタのネジを緩め、開度の調整が必要です。



【代表的な油配管例】

白煙の場合：シャッタを閉じ気味にして燃焼空気を少なく調整してください。
黒煙の場合：シャッタを開き気味にして燃焼空気を増やして調整してください。

(注意)

エアシャッタの調整後、すぐに排気ガスの色は変わりません。しばらくした後に変わりますので、時間をかけて行ってください。

着火・燃焼中に白煙・黒煙が出なければエアシャッタの固定ネジを締めてください。

Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

34

STEP 4 点検・掃除が終わったら

ハウスカオンのメンテナンスについて

■ 赤色の機種(ハウスカオンキ5～10型)の場合 ■ 灰色の機種(ハウスカオンキ20・22型)の場合



■ 緑色の機種(ハウスカオンキ25型)の場合 ■ オレンジ色の機種(ハウスカオンキ27型)の場合



【加温終了編】

シーズンオン 春～夏

冬季のハウス栽培では、広く使われ、欠くことのできない温風暖房機ですが、春も過ぎ季節は初夏となり、暖房機にも専用カバーを掛ける頃となりました。

すでに暖房シーズンも終了した方、そろそろ終了する方など様々なようですが、今回はカバーを掛ける前にお願いしたい事をまとめてみました。



以上でメンテナンス作業は終了です。お疲れ様でした。

Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

35

Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

36

加温終了編

シーズンオフ 春～夏

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

【メンテナンスの方法】	
STEP 1 缶体の掃除はシーズンオフに！ ～掃除の方法～	37
STEP 2 油配管のバルブ操作	39
STEP 3 元電源は必ず切る！	40
STEP 4 制御盤および付属コード類の取り外し	40

ちょっとひとこと	41
最後にお願い	42

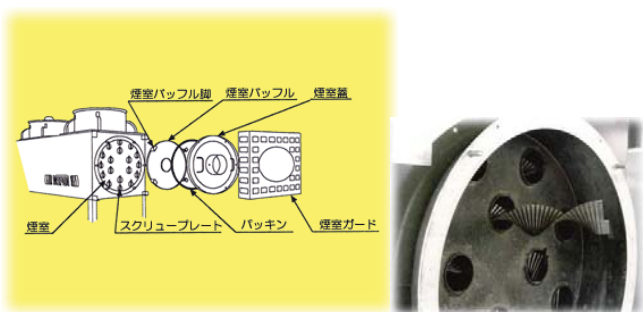
STEP 1 缶体の掃除は、シーズンオフに ～掃除の方法～ 1/2

A重油を燃料とした場合、燃料に含まれる硫黄や灰分などがカスとして缶体内に溜ります。そのままにして(掃除をしないで)おくと煙管が詰まり黒煙が出たり、不着火になったりと、大きなトラブルの原因になります。

このカスは湿気を帯びやすく乾けば固まる性質を持っています。また、長期に放置しておくで缶体腐蝕を助長することもあります。

そこで暖房シーズン終了の時点で缶体清掃をお奨めします。

【1】後部の煙室蓋を外し、スクリーブレートを抜きます。



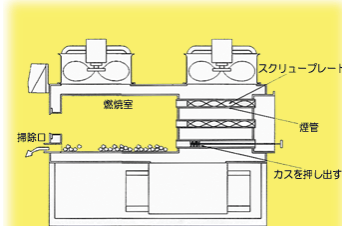
Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

STEP 1 缶体の掃除は、シーズンオフに 2/2

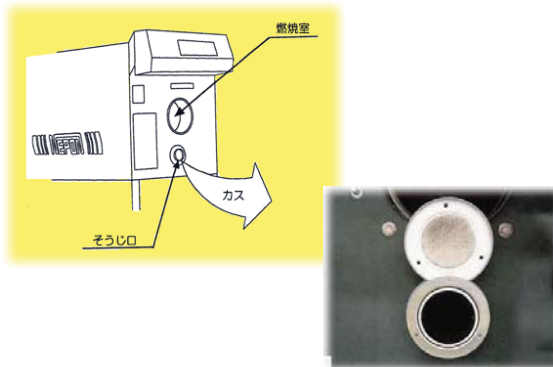
加温終了編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

【2】煙室に溜まったカスを掃出し、スクリーブレートの汚れをワイヤブラシなどで落します。



【3】煙管に溜まったカスは、燃焼室側に押し出し、バーナ下の掃除口から掻き出します。



【4】煙室や掃除口のパッキングが古くなったり、つぶれていたり、破損している場合には、必ず新しいものと交換してください。(※排気ガスが漏れガス害になる危険性があります。)

【5】最後に(1)～(4)の逆の作業を行い、元通りに復元しましょう。

【6】掃除の後は、続いて油配管のバルブ操作などを行ないます。

Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

STEP 2 油配管のバルブ操作

加温終了編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

オイルタンク内の燃料は、なるべく使い切るのが理想ですが、余ってしまうものです。

いたずら等での流出事故や防災上の観点からも、オイルタンクのバルブは閉めてください。

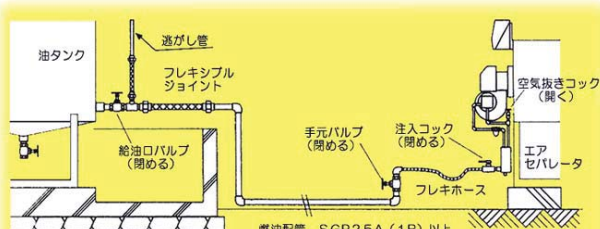
油配管内は、夏季の直射日光や高温で燃料が膨張し圧力が非常に高くなり、バーナの部品を破損することもあります。

このような場合は、エアセパレータのエア抜きコックを開けて膨張してあふれる油を空き缶等で受け、圧力を逃がしてください。

但し、シーズンが始まる時には、必ずエア抜きコックを閉じてください。

そのまま油タンクのバルブを開けるとエア抜きコックから油が流れ出し、流出事故の原因となります。

油タンクに、膨張逃がし管を設備するのも良い対策と言えるでしょう。



夏期の暖房オフシーズン中のバルブ開閉

Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

STEP 3 元電源は必ず切りましょう。

加温終了編

※全ての作業は、元電源を切り給油バルブを閉じてから行なってください。

専用カバーは、通気性にも気を使っていますが、

制御盤内は、梅雨時期の湿気などで露がついたりする場合もあります。

それが、古びニールではなおさらです。

漏電による事故防止や節電の意味合いからも

元電源は、必ず切ってください。



STEP 4 制御盤および付属コード類の取り外し

夏季、ハウスを使用しない場合や被雷の恐れのある場合は、制御盤および付属コード類を外して、湿気の少ない涼しい所に保管してください。

高温のハウス内にそのまま放置しておくで故障の原因になる恐れがあります。

Copyright(C) 2005 Nepon Inc. All Rights Reserved.

ハウスカオンキを末永くお使い頂くためにメンテナンスのポイントをご説明しましたが、暖房シーズン中に日常でお願いしたい点も若干記しておきます。



◆ 本体周辺の整理整頓

火気を扱うものですので可燃物を周囲には置かないよう、火災には充分お気を付けてください。



◆ 週に一度はチェック

機械部品をたくさん使っており、故障が少ないとはいえない「ない」わけではではありません。

週に一度は、簡単な運転チェック(5~10分位運転)をして煙突・バーナ・本体に異常がないか確認をお願いします。

修理にかかる時間も考えれば、運転チェックは午前中に行なうのが良いでしょう。



◆ 給油も、早めに午前中

不着火の原因の一番は、油関係のトラブルです。

もちろん油が無ければ運転できませんが、その他にも「暖房運転中に給油をして、油タンク内がかき混ぜられてタンクの底に溜まっていた沈殿物が配管内に入って不着火になった。」

などの例もあります。給油は出来るだけ早めに、小まめに、午前中の早めの時間がお奨めです。

故障・不具合は無いにこしたことはありませんが、万が一、トラブルが発生し、サービスマンが必要になった場合は、

慌てずに、お買い求め先のJA・販売店・代理店・弊社営業所へご連絡をお願い致します。

ご連絡の際には、**ハウスカオンの型式・製造番号と不具合の症状**を併せてご連絡頂ければ迅速な修理が行えます。

ハウスカオンの型式・製造番号は、図の様に本体に銘板が貼付けてあります。

ご協力をお願いいたします。

■ 赤色の機種(ハウスカオンキ5~10型)の場合



■ 灰色の機種(ハウスカオンキ20・22型)の場合



■ 緑色の機種(ハウスカオンキ25型)の場合



■ オレンジ色の機種(ハウスカオンキ27型)の場合

